

防災を考える市民の会
機関紙
第 70 号

はんしょう
鐘 鉦

2008年7月20日
連絡先 宇治市宇治琵琶 45-2
宇治市職員労働組合気付
電話 22-5653、fax23-4960

危険とムダな計画は中止・見直しを「会」緊急署名

8月末に提出します。ご協力ください。

整備局 流域委員会を無視して天ヶ瀬ダム再開発(430億円の巨大放水路建設) 計画案の発表を強行

6月20日午後、国交省近畿地方整備局は、天ヶ瀬ダム左岸に巨大放水路トンネルを建設するなどの天ヶ瀬ダム再開発事業や丹生ダム、大戸川ダム、川上ダムの建設を盛り込んだ淀川河川整備計画案を発表しました。これらの計画については、整備局の諮問機関である「淀川水系流域委員会」で議論され、いずれも効果について疑問視され「不適切」と4月下旬に提出された意見書でも明らかにされてきたものばかりです。

しかも流域委員会では「宇治川問題」で審議が始まったばかりで、さらには天ヶ瀬ダム直下に断層が存在していることが建設時の調査資料でも明確で、整備局もようやく公表するなどの新たな段階での強行に各界、各層から大きな批判の声が上がっています。

6月30日に開催された流域委員会では、整備局の暴挙への批判とともに『最終答申』



写真は7月2日緊急会議で問題点を報告する志岐「会」代表

へ責任をもつことが確認され、作業検討会という形で7月17日には利水問題で審議され、7月30日(水)午後1時から宇治川問題で審議が行われる予定です。(場所は大阪梅田駅前第2ビル4階)

会は、7月2日夜7時から緊急の個人団体代表者会議を開催し今日の状況や今後の取り組みについて協議しました。

防災を考える市民の会 再開発中止署名 8月25日集約へ記者発表

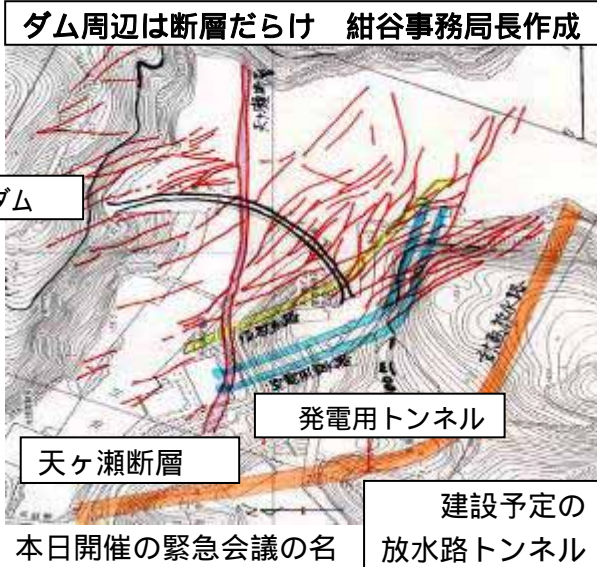
7月21日(月) JR宇治駅、近鉄小倉で署名宣伝行動実施

会議では、整備局のやり方に大きな怒りの声が出されるとともに、この整備局の暴挙を「歓迎する」との談話を出した宇治市長の不見識な態度を問題視する発言も相次ぎました。

熱心な議論を経て天ヶ瀬ダム再開発1500トン/s(現行は約900トン/s)の放流計画は、

- ・脆弱な宇治川堤防の破堤の危険性を高めるものである。

- ・ダムを直下の断層や軟弱な地質の上に存在する天ヶ瀬ダムは今でも危険であり、再開発の巨大放水路トンネルの建設でさらに危険性を増幅させることになる。
- ・世界遺産を抱える宇治川のさらなる景観・環境破壊を招くことになる。
- ・ダムの効果が疑問視されている中、天ヶ瀬ダムで、約 300 億円（丹生ダム分は未定、算定されていない。）を越える莫大な負担金が京都府民に押し付けられる。
- ・水需要が大幅に減っている中で、天ヶ瀬ダム再開発の利水分だけでも 38 億円もの京都府民に新たな負担を押し付けられる。などが明らかであり正に無駄な公共事業であることが明確になり、このような中で、整備局への抗議文を送付する。府、市への要請行動を強化する。再開発の危険性と市の問題点を知らせる市民ニュース、地域宣伝キャラバン等の住民宣伝、署名活動を提起する。などの行動を展開していくことが確認されました。



7月3日 天ヶ瀬ダム周辺の地質調査について 志岐代表のコメント

整備局の詳細な調査資料の公開と検証、調査結果の再検討、修正が必要に

筆者ら「宇治防災を考える市民の会」の地質学関係者（紺谷、志岐）は、「淀川水系流域委員会」に地質学専門家が欠けているという事情のため、その要請により、2008年7月3日に国交省琵琶湖河川事務所および地質コンサル会社の地質専門職員数名とともに、天ヶ瀬ダム周辺の地質の現地観察を行った。その結果、コンサル会社の調査手法と調査結果に再検討や重要な修正を要する点が認められ、今後さらに詳細な地質調査が必要であることが明らかになったので、とりあえずその要点を報告する。なお、これらの諸点、問題は、地質コンサル会社の専門家はもちろん、琵琶湖河川事務所の参加職員にもかなり理解されたと思われる。



近畿地方整備局公表のダム直下断層(上の点線 F-0 断層)

琵琶湖河川事務所は、この調査を「地質観察説明会」として報道機関に報知していた。おそらくそのために多くの市民が参加したので、調査、討論のかたわら、可能な限り、問題点

や観察内容を一般市民に説明した。しかし、市民からは、今回と異なり早期に事前の報知を行い、再度説明を行うことが強く求められた。琵琶湖河川事務所、我々、「防災を考える市民の会」の地質家とも異存なく、その実行を約束した。その説明に際しては、当然ながら、内容的にも修正や再検討の結果を含めてきちんとまとめ直した結果を示すことが求められると思われる。その時期、持ち方などについては、今後関係者間で検討、調整しなければならない。

当日の調査、討論により、以下の諸点について、参加したすべての地質家の認識が一致した。その内容は、根拠を含め、おそらく行政、市民の多くの参加者にも理解されたと思われる。

- 1：黄檗断層は第四系の砂礫層を切る活断層である。ダムより 1.5km に黄檗活断層系の主脈の少なくとも一つが確実に存在する。
- 2：活断層の最新活動時期を推定するには、低位段丘面の高度の連続性を検討することは必要であるが、現在までの調査には、黄檗断層系の活動がこの面をずらしているとも、いないとも言える精度がない。
- 3：天ヶ瀬ダム直下を横切って“天ヶ瀬断層（F - 0 断層）が存在する。
- 4：ダム右岸の岩盤は亀裂が多く劣悪である。風化が進んでいるところもある。各種変状が認められる。

以下、当日に観察した地点毎の代表の見解による解説をいただいておりますが紙面の都合により後日掲載とさせていただきます。（事務局）

7月10日 流域委員会宇治川問題責任者 綾史郎委員と宮本博司委員長 ら槇島堤防、塔の島付近、天ヶ瀬ダム周辺断層の調査見学

防災を考える市民の会（代表志岐常正・京大名誉教授）と世界遺産を守る会（代表須田稔立命館大学名誉教授）は、7月10日午後大変多忙な日程をさいて宮本博司流域委員会委員長と流域委員会の宇治川問題の責任者である綾史郎委員（大阪工業大学教授）のご出席をいただいて天ヶ瀬ダム周辺や塔の島付近、槇島地域の調査見学会を行いました。調査見学会には、市民ら20名が参加。槇島地域の調査には、槇島東地区防災対策会議の会長の辻昌美さんの案内で危険箇所を見て回りました。



社会長より槇島堤防下で危険性について説明を聞く
写真右から宮本委員博司委員長、綾史郎委員ら

調査終了後、午後5時過ぎに塔の島付近の調査終了後、近くの花やしきの会議室をお借りして綾史郎委員らと交流会を開催し、お互いに率直な意見を述べ合って交流しました。この内容は、7月30日開催の流域委員会作業検討会に報告されます。ぜひご参加ください。

河川整備計画をめぐる動き

- * 6月19日 国・整備局へ抗議文送付。 6月27日 流域委員会へ要請。 世界遺産を守る会
- * 6月20日 横島堤防直下の危険箇所調査見学会 辻連合町内会長の案内で実施
7月8日に整備局に抗議申入れ、府、宇治市に要請 中宇治をよくする会
- * 6月20日 宇治市小倉、伊勢田で浸水被害 床上8、床下189棟
- * 6月25日 大阪弁護士会が「見切り発車は、河川法違反」と指摘
「原案の見直し、再提示を求める会長声明」を発表
- * 6月27日 流域委員会の意見を無視した近畿整備局の暴挙に抗議
宇治市と京都府にも要請 日本共産党宇治市議会議員団
- * 6月30日 流域委員会開催 「最終答申を出すまで現委員会で責任を。」確認された。
- * 7月17日 第17回作業検討委員会開催 天ヶ瀬ダム再開発京都府利水に関する論点・課題の整理（担当：宮本委員長）が行われた。

ご参加ください 7月30日(水)13~17時 第18回作業検討会

綾 史郎委員担当の「宇治川改修問題」が議論されます。

地元住民の意見を受けての審議です。宇治川関係者各位の参加を願います。

資料も持参してください（約20~30部程度）

開催場所は、7月30日(水) キャンパスポート大阪(NPO法人大学コンソーシアム) ルームD 大阪市北区梅田1-2-2-400 大坂駅前第2ビル4F (西梅田側エレベータの利用が便利です)に変更されました。ご注意ください。

宇治川問題が 国会の場へ

穀田衆議院議員(日本共産党)国会事務所が天ヶ瀬ダムと宇治川改修の現場視察と地元との意見交換会 開催の案内

とき 7月23日(水)

午後2時~ 天ヶ瀬ダム統管事務所 国交省職員からの説明を受ける。

午後4時20分~ 宇治川改修

午後6時10分~7時半 意見交換会 地元の皆さんと意見交換したいと
のことです。場所は 市民会館第3会議室(JR宇治川踏切北側)

穀田議員本人も参加されます。宇治川問題を国会の場へ地元の声を届けましょう。

意見交換会に参加希望される方は、今回窓口になっていただいております世界遺産を守る会事務局の藪田さん(電話48-2472)へ事前にご連絡ください。

ご案内 自治の水脈を守る 緊急シンポジウム

とき 8月2日(土)午後2時から4時半 大山崎ふるさとセンター3階ホール

「自治の大河「淀川水系」とダム問題の現在」宮本博司委員長、「大山崎と京都府営水道」真鍋町長も講演されます。ぜひご参加ください。連絡先 075-957-4218(皆川)